

## 早稲田大学 大学院教育学研究科 出題意図および解答例

|         |            |
|---------|------------|
| 年 度     | 2026年度     |
| 試 験 日   | 2025年9月20日 |
| 研 究 科   | 教育学研究科     |
| 課 程     | 修士課程       |
| 専攻・コース等 | 学校教育専攻     |
| 入 試 制 度 | 特別選考制度     |
| 試 験 科 目 | 小論文        |

### 出題意図及び解答例（解答のポイント）

#### 【注意事項】

※公開する解答例には、別解がある場合があります。

※お問い合わせいただいた内容は本学で確認し、必要がある場合には、入学センターWebサイトに掲載いたします。個別に回答することはいたしません。

※お問い合わせ先：早稲田大学入学センター [nyusi@list.waseda.jp](mailto:nyusi@list.waseda.jp)

#### ■出題意図

教育実践の経験を基盤として、教育現場の課題を理論的に整理・考察し、論述できる力を評価・判定する。

#### ■解答例（解答のポイント）

##### 問題

※特定の解答に誘導すると知識・思考力等を測ることが困難になるため、解答例は公開しない。

#### 解答のポイント/評価のポイント

- （１）大学卒業後、教員以外の職歴の有無と教職との関連について、教育現場における自身や周囲の経験を踏まえ、賛否を表明するとともに、その理由を適切に論述できるかを評価した。
- （２）日本社会の労働慣行のメリット・デメリットについて、個人と社会とに分けた4つの象限のそれぞれを理解できているかどうかを評価した。
- （３）地域学校協働活動を、学校と地域をつなぐ教育の社会的基盤として、その目的・仕組み・担い手の役割について理解できているかどうかを評価した。
- （４）学習指導要領等における教科等横断や各教科等における「見方・考え方」について正しく理解し、自身が専門職として関わっている学校種の児童生徒の実態をふまえて、現代社会の課題に関して適切に論じられているかどうかを評価した。
- （５）いじめ重大事態を正しく定義しているか、及び、学校現場における具体例を挙げて、予防、発見時の初期対応、再発防止に向けての個別及び組織的な対応が時系列で適切に論じることができているかどうかを評価した。
- （６）生徒指導の構造における2軸3類4層構造を正しく理解し、専門職としての知見を活かしながら、その構造の具体例をそれぞれ適切に論じることができているかどうかを評価した。

以 上